

次世代制御技術調査研究会

浅井 徹(大阪大学)

概要

- 目的
 - 制御技術部会の特長を活かして産業横断的に見て現状の課題，ニーズ，将来に期待する技術を明らかにし，制御技術の今後の方向性を考える
 - 産産間・産学間の技術交流、相互理解
 - 技術ロードマップ
- 2009年1月発足、2年間

経緯

- 以前の経験 (^_^)
 - 電気学会(足立先生)
 - モデル研究会(木村先生)
 - 研究の方向性に影響
- 理論シンポでの度重なる企画 (T_T)
 - (企画の意図とは裏腹に)隔たりの大きさをより強く感じた
- 大谷部門長より研究会主査の依頼
- 産業界と接触する機会の確保
 - 30代までの理論研究者にも

ねらい

- 10年、20年後に「やっておいたよかった」と思えるような研究会を
- 次の世代を見据えた
 - 相互理解の深化
 - 人間関係の構築
 - 問題の発見・提起
- 形にしやすい成果だけでなく、形にあらわれにくい関係・理解・知見も
 - 制約条件、「評価の高い成果」の意味、時間の感覚、個人/組織などの違いの理解
 - 気軽に相談できる関係
 - **Positive** Feedback Loop

研究会

- メンバー
 - 企業13社(15名)
 - 住友金属工業、東芝、リコー、JFEスチール、横河電機、東芝三菱電機産業システム、山武、富士電機アドバンステクノロジー、三菱電機、日立製作所、三菱化学、本田技術研究所、ユニバーサル造船
 - 大学9名:教授1名、准教授4名、助教4名
- 年3～5回、1回4時間程度
- 内容
 - 自己紹介:経歴、研究会に対する思いなど
 - 話題提供
 - ディスカッション:今後の方向性、ニーズ、シーズなど

現状と今後

- これまでに2回の研究会を開催
 - まだ手探りの状態：縛りがなく自由
 - 少しずつ議論が活発になりつつある
- 随時参加受付中（特に若手）
- 継続と新陳代謝
 - 一過性のものでなく長期的な「場」
 - いずれ中堅はシニアに、若手は中堅に
- 「地道な努力の積み重ね」

